



横浜 アクションアワード

若者と地域団体の
パートナーシップ活動を
表彰する

2023

YOKOHAMA
ACTION
AWARD



若者×地域で描く未来!!



地域の未来を創る活動は、
「あなたの力」で飛躍する！

横浜アクションアワード2023
実施報告書



横浜アクションアワードとは

横浜アクションアワードは、若者と地域のNPOや団体がパートナーシップを組んで活動している事例を多くの方に知ってもらい、広げていくためのアワードです。

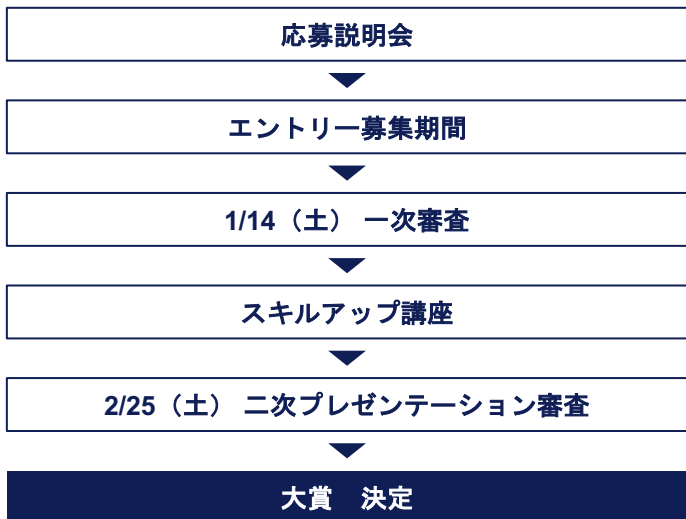
そのため一方的に活動を評価する賞ではなく、活動を応援する場、つながりを広げる場としての仕組みをいくつも設けています。

発信する	つながる	未来へつなぐ
学生と地域の連携による活動の魅力や意識、そして課題を発信していきます。	参加団体同士、団体と参加者、いろんな人がつながり合う場を運営します。	この場での出会いが活動を次のステージへ、未来へとバトンをつないでいきます。

例えば審査員は企業や行政、NPO、高校生等の多様なまちのプレイヤーが参加しており、二次審査当日は一般参加者も審査に参加できるなど、参加団体と交流・寄付することで応援できる仕組みも設けています。

さらに受賞団体には、活動に役立つプライスレスな支援を「サポートメニュー」として提供するなど、団体の活動支援の輪を広げ、持続可能な若者×地域の活動事例が増えていくことを期待しています。

1年間の流れ & 応募資格



【応募資格】

- ・横浜市及び近隣の活動であること
- ・30歳以下の若者グループ・個人であること
- ・若者と地域コミュニティの連携事例であること
- ・地域活性化や社会性の高い活動であること
- ・2022年度に実施している活動、および2023年度に実施予定の活動

今年度のエントリー団体一覧

6団体のエントリーがあり、そのうち5団体が二次審査へと進みました。

☆ 2022年 出場団体
★ 2021年 出場団体
★ 2020年 出場団体

【過去出場大学】
桜美林大学、神奈川大学
関東学院大学、法政大学
フェリス女学院大学
明治学院大学、横浜国立大学
横浜市立大学など

審査基準について

ビジョン性	活動を通じて目指したい社会像があるか
継続性	継続可能な活動計画、運営体制か
チャレンジ性	活動に新たなチャレンジがあるか
パートナーシップ性	参加者同士、若者と地域で良い関係性が築けているか
波及性	活動が単発で終わるものではなく、地域に波及していくものか
独創性（若者らしさ）	若者ならではの活動、独創性などがあるか

賞及び副賞

大賞	二次審査+(会場・オンライン参加者)の審査で最も得点の高かった団体 副賞：賞金1万円+APYが伴走支援+サポートメニュー
準大賞	二次審査+(会場・オンライン参加者)の審査で大賞の次に得点の高かった団体 副賞：クオカード+サポートメニュー
審査員特別賞	大賞、準大賞以外で審査員が賞を贈呈したいと思った団体 副賞：審査員による特別サポートメニュー

結果発表

どの団体のプレゼンも素晴らしく、全ての団体へ賞が贈られる結果となりました。審査員の方々のお仕事や人脈を生かし、今後様々な形で地域で活動する若者を後押しをしていきます。出場団体の皆様の今後の活動から目が離せません。

大賞

横浜市立大学ボランティア団体
one by ONE

×

神奈川県立こども医療センター



副賞：賞金1万円
アクションポートによる伴走支援
石井造園CSR報告会にて賞金贈呈

【発表概要】

オンラインにて、院内家庭教師としての学習支援、子どもたちと家族との思い出づくりイベントの2つを実施しています。
学習面に不安を抱えて入院している子どもたちの状況を見て、院内の教育支援を開始しました。「気にかけている人がいる」ということを感じてほしい、治療を忘れて子どもとして楽しめる時間を増やしたいとの思いを持っています。2018年から活動を開始し、これまで170回の授業を実施しました。2022年度は、5つの病院を対象に17名のお子さんに60回の授業を届けました。お子さんからの「退院後の支えと自信になった」「わからないところが聞けて良かった。またやりたい」などの言葉が活動の原動力になっています。小学生から高校生を対象に、学校の内容や英検の勉強、お話など一人一人に寄り添った授業を展開しています。



行政や大人がリーチしきれていない課題に対して取り組んでいるところに驚きました。「学習というコミュニケーションツール」という言葉が印象的で、とても素晴らしい活動だと思いました。
(審査員：小正氏)

準大賞

保土ヶ谷盛り上げ隊 (KIKCAFE学生部)

×

旧東海道保土ヶ谷宿を
末永へつなげる まちづくり協議会



副賞：クオカード
アクションポートによる活動支援

【発表概要】

学生が見つけた3つの「もったいない」を、パートナー団体であるまちづくり協議会主催の秋まつりで解消する取り組みを学生の提案で行いました。
①保土ヶ谷の飲食店の魅力に気づかず、横浜駅に出てしまう→保土ヶ谷駅付近の飲食店を紹介するマップを作成しました。
②文字が多くてまちづくり計画を読んでももらえない→多くの人にワクワクした気持ちでページをめくってもらうため謎解きを使って、読みやすいものに編集しました。
③保土ヶ谷が宿場町だった歴史を知らない→老若男女に身近に感じてもらうために、お笑いのワークショップを実施し20名以上に参加していただきました。
今後はまちづくり協議会の方と協力していきながら、マルシェや朝市など地域イベントに参加していきます。



「保土ヶ谷を盛り上げよう」という想いをもち地域の方を巻き込んでいく姿勢が印象的でした。次の世代に活動が引き継がれていくことを期待しています。
(審査員：菊嶋氏)

審査員特別賞

横浜市立大学 Clover × 株式会社SEED

【発表概要】

「海はきれい？汚い？」海に対するイメージは人によって大きな差があります。私たちは誰にとっても綺麗と思える海を実現させたいと考え、活動しています。海洋ゴミが溢れると、魚を食べている私たちも他人事ではありません。私たちは海を守るための活動をしますが、学生だからできることに取り組み、100人の1歩を応援していきたいと思います。

活動の一環として、コンタクトレンズのプリスターを回収する株式会社SEEDさんとコラボした活動を行っています。



副賞：神奈川新聞社より取材

フェリス女学院大学 Keep the smile

×

特定非営利法人グリーンパワーファクトリー

【発表概要】

「フェアトレードについてみなさんご存知でしょうか？」私たちは正当な対価が生産者に支払われない現状を改善するために、フェアトレード商品を通じて途上国に売り上げを寄付する活動を行っています。主な活動内容は、ワゴン販売とフェアトレード商品を用いた料理教室の開催です。

マダガスカル渡航に向けて勉強会、写真会など様々な準備をしています。今後もグリーンパワーファクトリーさんと、海外に向けても一緒に続けていきたいと考えています。



副賞：関東学院六浦高校の総合学習の授業にて登壇

マッチメディア瀬谷×特定非営利活動団体まんま

【発表概要】

瀬谷は自然豊かで、2027年には花博の開催が決まっています。しかし人口は減少傾向にあり、「住みたい街ランキング」は堂々の圏外です。私たちはまだまだ知られていない瀬谷区の魅力をWebメディア「マッチメディア瀬谷」を通じて届けています。

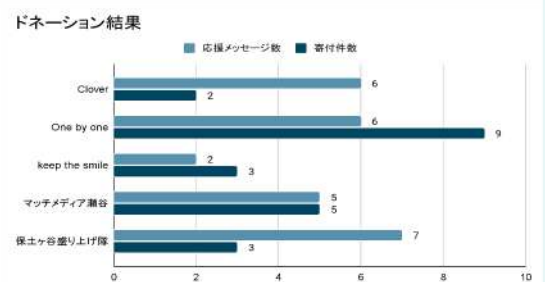
NPO法人まんまさんとは取材をし記事化した他、紹介を受けて新たな活動へとフィールドを広げています。これからも瀬谷区を愛し、瀬谷区に愛されるメディアを目指し活動していきます。



副賞：瀬谷区の地域団体行政等の紹介

ドネーション結果

一般参加の方々が団体の活動を応援する時間を設け、総額27000円もの寄付が集まりました。たくさんの方より団体の皆さまへの寄付とメッセージが送られ、アワードでの発表が多くの方々の心を動かしたことがわかります。地域で活動する若者を応援する方々の熱い想いが、メッセージから伝わってきました。



一次オンライン審査

開催日時：1月14日(土)14:00-16:30

会場：オンライン



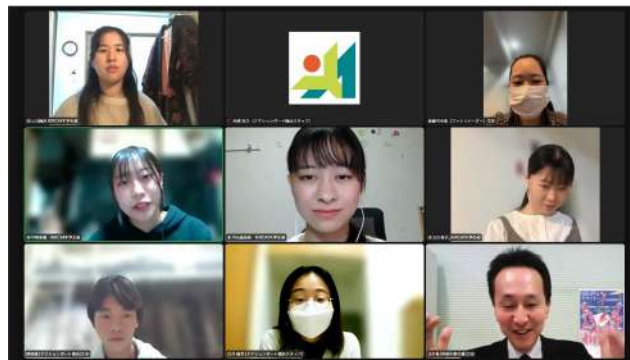
プログラム

- 14:00～ プレゼンテーション審査
- 15:00～ ブラッシュアップ交流会
- 15:40～ コメントタイム
- 16:00～ 交流タイム

一次オンライン審査ではプレゼン審査をした後、二次審査発表のブラッシュアップをする交流会を行いました。プレゼンでは活動の狙いとその背景、団体の強み・今後の展望を考え、発表してもらいました。審査員から団体へ、サポートとなるアドバイスや親身なコメントをいただき、良いブラッシュアップの機会となったと思います。



▲ プレゼンテーションの様子



▲ ブラッシュアップ交流会では審査員からアドバイスをもらいました。

審査員&ファシリテーターの皆さま

審査員には、企業や行政、NPOなどをはじめ、多様な活動をしている皆さんに、ファシリテーターには学生時代に横浜で活動していたアクションポートの卒業生に参加いただきました。

審査員	地域	神奈川県共同募金会 中島 孝夫様	卒業生	齋藤 百合恵さん
	企業	ヤマト運輸労働組合 村上 りおな様		勝尾 桃花さん
	NPO	NPO法人子ども応援ネットワーク 佐藤 洋子様		浜名 かおりさん
	公共	横浜市社会福祉協議会 日暮 悦明様		有見 亜佐土さん
	若者	高知大学地域協働学部卒 三谷 七香様		佐川 遼さん
	卒業生	アクションポート横浜卒業生 内藤 秀治様		内山 塔子さん

スキルアップ講座

開催日時：1月14日(土)19:00-21:00

会場：オンライン

講師

奥ちひろさん

1986年 秋田県横手市生まれ
2009年よりNPO法人秋田県南NPOセンターにて市民活動サポートセンターの運営、情報誌「はんさん」の編集、若者会議の企画・運営等を担当する。



ファンを獲得するための 情報発信力 (プレゼンカ) 講座



秋田県南NPOセンター
奥 ちひろ

●1986年、秋田県横手市生まれ
●玉川大学（東京都町田市）卒業後、
NPO法人秋田県南NPOセンターへ就職し
市民活動サポートセンターを立ち
上げた。2018年度、若者の社会参加と関心
に関する研究所の研究員を兼任。

<主な講座内容>

- ・ 自団体を見つめなおす、自己分析ワーク
団体ごとに、自団体の意義や活動の意味を再確認し、自団体を振り返りました。
- ・ 伝わるプレゼン力を考える「自分がリアクションしたくなるプレゼンは...?」と、聴衆側の視点から考え、伝わるプレゼン作りに必要な要素を学びました。



奥ちひろさん

活動について情報発信するとき、私たちは、誰からのどのようなリアクションを期待し、そのためにはどんな内容を、どんな形で伝えると良いでしょうか。こうしたことをデザインする過程では、自分がなぜ活動しているのかという原点を問うことになります。講座では、エントリー団体と一緒に自団体や自身を見つめ、言語化することに挑戦しました。アワードが内省や前進のきっかけとなり、今後の活動や人生に生きるものとなれば嬉しいです。

出場団体の声

アワードに出場していただいた皆さんにお話を伺いました。アワードが自分たちの団体の活動を振り返り、今後の活動に繋がる機会となれば幸いです。



中道陽菜さん (横浜市立大学ボランティア団体 one by ONE)

一次、二次審査に向けた発表の準備や当日のたくさんの方からのお言葉を通して、改めて自分の団体の活動や意義を見つめ直すことができました。団体にとってとても貴重な経験となりました。



平野未唯さん (保土ヶ谷盛り上げ隊 KIKCAFE学生部)

私たちが行ってきた活動を多くの方々に知っていただくことができ、さらに準大賞を受賞できとても嬉しいです。これからも保土ヶ谷を盛り上げるため活動をしていきますので応援よろしくお願いたします。

二次審査公開プレゼンテーション

開催日時：2月25日（土） 13:00~17:00

会場：横浜市役所1階アトリウム&YouTube配信

プログラム

13:00- プレゼンテーション審査

15:00- ドネーション交流会

16:00- 審査結果

17:00- 交流会



① プレゼンテーション審査

1団体7分でプレゼンテーションを行い、その後審査員からの質疑応答を得て審査となります。

当日は横浜で活動している若者とパートナー団体の両者に参加いただき、取り組みを発表していただきました。今年は社会課題に取り組んでいる団体と地域密着型の団体があり、例年に比べて出場団体の幅も大きく広がりました。BGMを用いたり、会場参加型にするなど工夫の凝らしたプレゼンが披露されました。



② 過去受賞団体プレゼン

今年初の取り組みとして休憩時間を利用し、2020年大賞を受賞した「まち×学生プロジェクト」と2022年大賞を受賞した「サコラボ」にプレゼンしていただきました。

「まち×学生プロジェクト」からは今年度からNPO法人になったという報告がありました。「サコラボ」も参加者が増え活動の幅を広げるなど、受賞時から月日を得て成長した姿を見ることができました。



③ ドネーション交流会

審査をしている間には、一般参加者と団体同士の交流や、応援したい団体への寄付（ドネーション）を行いました。多くの寄付が送られただけでなく、団体への温かいメッセージが寄せられたのが印象的でした。

one by ONEさんへ

子どもさんたちにとって素敵な機会になっていると思います。学生さんとの関わりは将来の希望になりますね、応援しています。

マッチメディア瀬谷さんへ

瀬谷区の実状をPRすることで瀬谷愛を感じられました。サイトは写真集のようで引き込まれました。

Cloverさんへ

避けて通れない大きな社会課題にチャレンジする気持ちが溢れていると思います。

Keep the smileさんへ

楽しみながら関わる場を設ける活動も素晴らしいのですが、何より発表者自身が楽しそうに話されていたのが一番良かったと思います。

DONATION CARD	
※1団体につき1枚 ※スライドに表示される番号と団体名をお書きください。	
寄付先	団体名
寄付額	600円 × <input type="checkbox"/> 寄付しない場合は お記入不要です
受付番号	お名前

保土ヶ谷盛り上げ隊さんへ

世代を超えて活動できているのが素敵です。保土ヶ谷に行きたくなくなりました！



④ ヒーローインタビュー

ドネーション交流会と同時進行で、オンライン参加者向けに各団体代表の方1名にお話を伺うヒーローインタビューを実施しました。発表を終えての感想や、アワード出場への想いなどを話していただきました。

お互いの発表を聞いて、他団体との交流が生まれました。自分たちと同じ熱量で横浜で活動している団体があることを知れて良かったです。



自分たちの団体を見つめ直すいい機会になりました。



早速KIKCAFE学生部とKeep the smileで「コラボしてやらない？」って話が出ていました。



⑤ 交流会

アワード終了後、近隣のレンタルスペースにて交流会を実施しました。任意の参加ではあったものの、審査員の方々、そして団体を超えた若者の交流もたくさん見受けられました。発表と審査を終えて緊張もほぐれた様子から「今後」の活動についての話や、自団体の話などリラックスした雰囲気で行われていました。



二次審査員の皆さまより



小正 和彦氏（横浜市立みなとみらい本町小学校 校長）

大人に支えてもらって活動をしているのではなく、皆さんの活動がダイレクトに社会に影響を与えていると感じました。皆さんの発表は社会課題の解決を促すものだったと思います。皆さんのような学生になることを目標にした学校を作っていきたいです。



荒木田 百合氏（横浜市社会福祉協議会 会長）

1つとして同じような活動がなく、若い世代の力を感じました。自分たちが課題だと思うことを自分たちの力で模索しながら解決の仕組みを作ることを、横浜の地で行っているのは横浜の未来に繋がります。皆さんの将来が楽しみです。



菊嶋 秀生氏（株式会社キクシマ 代表取締役）

社会の課題を解決するという目的がはっきりとした活動が地域と社会を豊かにしていきます。次の世代にバトンタッチしていくことが社会の課題を解決することに繋がると思います。



澁谷 菜氏（横浜市洋光台地域ケアプラザ 地域交流コーディネーター）

皆さんの力が地域にとって大きいと改めて感じる時間でした。皆さんの活動を通して、学生が地域に目を向けるきっかけになったり、大人が地域の課題に改めて気づく機会になると思います。



加地 紗弥香氏（神奈川新聞社 報道部）

いろいろなコンテンツがある中、社会や地域の課題と向き合って人を巻き込んでいく力をもった皆さんのパワーに圧倒されました。課題に対して一緒に地域と頑張っていく皆さんの活動が、より良い社会を作る希望になっていると感じました。



亀若 智洋氏（横浜市政策局大学調整課）

皆さんが自分の団体と活動に対して魅力を感じながら活動を行っていることが非常に伝わりました。皆さんのような活動が、行政とこれからもっと連携できるような仕組み作りに励みたいと思います。



伊藤 正悟氏 小俣 智士氏（関東学院六浦高校の学生）

大学生になると行動の幅が大きくなることを身に染みて感じた時間でした。素晴らしい活動が多く、順位をつけたくないと思ってしまいました。高校で学んでいることにも関連する活動が多く、刺激を受けました。

広報記録

- 1月24日 みなとみらい線ホームドアサイネージに掲載
- 2月2日 タウンニュース
- 2月16日 神奈川新聞
- 2月18日 Facebook LIVE配信
- 3月21日 朝日新聞



運営体制

- 主催：NPO法人アクションポート横浜
- 後援：社会福祉法人神奈川県共同募金会、社会福祉法人横浜市社会福祉協議会、横浜市政策局
- 助成：一般財団法人YS市庭コミュニティー財団
- 協賛：社会福祉法人神奈川県共同募金会
- 協力：横浜高速鉄道株式会社、審査員の皆様、アクションポート卒業生の皆様



たくさんの皆さんにサポートいただき、アワードが運営できました。ご協力ありがとうございました！

ご支援いただいた皆様

- ・勝尾桃花様
- ・阿部寿和様
- ・沼倉ゆきえ様
- ・平野孝典様
- ・川崎泉子様
- ・菊嶋秀生様
- ・NPO法人まち×学生プロジェクトplus様

運営体制



- | | |
|-------|-------------|
| 白井結芽 | 桜美林大学4年 |
| 内山塔子 | 東京理科大学4年 |
| 吉田美佳子 | 明治学院大学4年 |
| 山村陽満里 | 明治学院大学3年 |
| 吉野咲 | フェリス女学院大学3年 |
| 関英俊 | 明治学院大学3年 |
| 伊藤わかな | 早稲田大学1年 |



白井結芽

企画メンバーとして2年目を迎え、「できれば良いよね」を可能な限り実現したいと思い、トライアルを重ねながら企画運営に携わりました。準備段階で試行錯誤した時間は決して無駄ではなかったと、当日の会場で見えた景色や皆さんの笑顔や想いがそう思わせてくれたのだと思います。少しずつですがアワードの価値を共有できる輪が広がっているのを実感できたと同時に、会場全体で、新たな発見や可能性を発掘できたことも今年のアワードの成果だと感じています。

今年度は過去3回の集大成。昨年に引き続き一次審査はオンライン、二次審査はアトリウムにて実施することで県外在住の一次審査員やアトリウムの通行人などにもご参加いただけました。「若者の活動をより多くの人に知ってもらおう」というアワードの実施価値の1つをさらに確立できたと感じています。運営上の課題も多くありましたが、「学生の活動を応援する場を、学生がつくる」APYならではの旨みのある活動の中心に携われて充実した準備期間を過ごせました。



内山塔子



発行：2023年4月 NPO法人アクションポート横浜



〒231-0023 横浜市中区山下町94番地 横浜中華街パーキング協同組合内

TEL:045-662-4395

URL:<https://actionport-yokohama.org/>

アクションポート横浜

検索